

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	全体的にどの項目でも、市の正答率を上回っていたが、文脈に即した適切な漢字を使う、質問項目で0.6%、整式の加法と減法の計算、の質問項目で0.5%市の正答率を下回っていた。基礎基本の力の定着を図り、生徒の学習に向かう意欲、復習の習慣を得られるよう、授業改善を継続して取り組んでいく。
思考・判断・表現	「課題解決に向けて自分で取り組む」「友達との話し合いから考えを深める」の質問項目では、90%を上回っているが「学習した内容を見直し、次の学習に繋げる」質問項目では、市の回答率を上回ってはいないもの、特に1年生は87.2%に留まっている。今後、生徒自身が考え、説得力のある思考・判断・表現に繋がる授業改善に努めていく。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能はすでに身につけている生徒も多いが、①数学の「数と式」など分野によって差が出ていること、②学力が二極化していることが課題である。</p> <p><指導上の課題>スタディサプリなどを用い、個々にあった学習方法や習得した「知識・技能」を活用する場の設定や、学び合い活動などを行うことで、スローラーナーへの支援が課題である。</p>	⇒ AIDリル等を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を目指し、個の定着度に応じた反復練習に取り組ませる。【単元終了時等】 また、生徒の学習履歴等に基づき、適宜アドバイスをし、定期テスト前等の学習計画の作成や、家庭学習等を活用した取り組みを行う。【学期に2回程度】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>①問題文を読んだり発表や質問を聞いて答えたりすることへの苦手意識が高いこと、②発表やレポートなどにおいて、自分の言葉で表現する力が弱いことが課題として挙げられる。</p> <p><指導上の課題>教科書等を用いて、書いてあることを根拠に自分の考えを話す活動など、自分の考えを論理立てて構築する活動を行い読解力と表現力の向上に取り組むことが課題である。</p>	⇒ 授業の中に話し合い活動やスピーチ活動を積極的に位置づけ、表現する力の向上を図る。タブレット端末を活用し、情報活用や発表の能力が求められる学習活動を多く設定する。【単元計画の中で随時実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	スタディサプリを活用した基本的な事項を繰り返し学習する機会を設定し、学習習慣の定着を図ることに努めた。また、学習計画表に取り組ませることで、学習意欲の向上や予習・復習の習慣化に繋げることができ、市の正答率を2.3ポイント上回ることができた。引き続きさらに学習意欲が高まる授業を展開する。
思考・判断・表現	B	「Teams」や「ミライシード」を活用し、思考から表現までの過程を可視化し、意見の共有や協働作業を行った。その結果、「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた」質問項目で肯定的な回答の割合が96.8%を得ることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	さいたま市の平均と比較し、国語、数学ともにすべての設問で平均正答率を上回っていることから、基礎的・基本的な事項について、定着が図られている。	
思考・判断・表現	国語において、資料を用いて自分の考えが分かりやすく伝わっているかを確認する問題や、話し合いの中で意見と根拠など情報同士の関係について理解できているかを問う問題では、無解答率が市の平均より高いことがわかったため、授業だけでなく、教科等横断的に力をつけさせていく。 数学において、正方形の回転移動の理解について、無解答率が市の平均より高いことがわかったため、本校生徒の傾向として捉え、集中的に定着を図っていく。	

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	2年数学、2年社会では、知識・技能に関する問題について、市の正答率をすべて上回ることができた。体験的な活動から得た知識が身に付いている。国語の文脈に即して漢字を使うことができるか、文語のきまりを理解しているか、1年の数学の計算を問う問題や社会の資料から適切な情報を読み解く問題等、基礎学力を必要とする問題に課題がみられた。授業の中で、既習の確認や繰り返し学習をさせることで、基礎学力の定着を図る。また、生徒の知識・技能が深められるよう努めていく。	
思考・判断・表現	国語、数学、社会、理科、すべての教科で、市の正答率を上回ることができた。話し合い活動や他者との協議から解決策を見出す活動を通し、思考・判断・表現の力をさらに向上させたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	・AIDリル等の活用については、各授業での効果的な活用方法を研究している段階である。エバンジェリストを中心に、好事例等の実践を校内で共有し、効果的な活用を推進していく。	変更なし
思考・判断・表現	B	・タブレットの活用率が令和5年度に比べ2倍になり、各教科等でプレゼンテーションや話し合い活動での教育活動で効果を発揮している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能はすでに身につけている生徒も多いが、①数学の「数と式」など分野によって差が出ていること、②学力が二極化していることが課題である。そのため、①スタディサプリなどを用いて、基礎的な内容を毎回の授業で反復的に学習させ、知識の定着を図っていく。②学び合い活動などを行うことで、スローラーナーへの支援を工夫する。
思考・判断・表現	今年度の課題として、①問題文を読んだり発表や質問を聞いて答えたりすることへの苦手意識が高いこと、②発表やレポートなどにおいて、自分の言葉で表現する力が弱いことが挙げられる。そのため、教科書等を用いて、書いてあることを根拠に自分の考えを話す活動など、自分の考えを論理立てて構築する活動を行うことで読解力と表現力の向上に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	今年度、「グローバル・スタディ」科では全学年でパフォーマンステスト実施前に評価の観点を提示したり、理科では単元別自由進度学習の一部取り入れたりすることで、生徒自身が目標を設定し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫を行った。次年度も継続して、さらに他教科でも取り組みを広げていき、今年度の目標である項目について全学年87%以上を目指す。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、数学・理科の「知識・技能」において、3pt以上向上させる。	⇒ 授業及び家庭学習において「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、基本的な「知識・技能」を強化する。計算や概念に関する事項の反復を行うとともに、スモールステップを意識した授業を展開し、習熟に努める。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、各教科の「思考・判断・表現」において、3pt以上向上させる。	⇒ 読解力の視点である『つなげる』『比べる』『重ねる』読み方・考え方を生徒に提示し、意識づけをさせる。また、「オクリンク」「ムーブメント」を活用し、仲間の意見を参考にしながら自分の意見を深めさせ、より深い思考を促す。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答割合を全学年90%以上とする。	⇒ 毎時間の学習課題を明確化するとともに、各教科の授業の終わりに「本時の振り返り」の時間を設け、学習内容を確認・整理する。次回の授業の最初に前時の確認を行い、本時の学習と結びつけるようにする。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度市学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度同調査と比較して、それぞれ数学+0.7pt、理科+2.3ptであった。数学科でワーク等を通して、計算や概念に関する事項の反復を行った成果と考えられる。	B
思考・判断・表現	R5年度市学習状況調査の各教科の「思考・判断・表現」の偏差値において、R4年度の同調査と比較して、平均1.2ptの向上がみられた。「グローバル・スタディ」科では書く・話す等の活動において、客観的に「分かりやすさ」を体感しながら表現力を伸ばせるよう工夫した。また、仲間の意見を参考にしながら自分の意見を深めることができた。	C
主体的に学習に取り組む態度	R4市学習状況調査における「学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」の肯定的回答割合は、1年79.9%・2年92.8%・3年87.7%となった。数値としては達成したと言えるが、「④さいたま市学習状況調査結果・分析」の通り、話し合っただけで主体的に問題を解決する力が弱い。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	概ね非常に良い結果であるが、国語の文脈に即して正しい語句を書く、歴史的仮名遣いを正しく読む等、基本的な語彙を扱う領域において課題がみられた。解答類型から、漢字については、覚えているが使い方まで身につけていないことが考えられる。言語の使用場面を意識した学習活動を重視したい。また、古文については無回答率が高く、慣れ親しませる学習活動に取り組むたい。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」、英語の「書くこと」の領域、数学の図形の証明において特に高い正答率がみられた。国語では的確に読み取りができており、英語では言語の働きを十分に理解し、読んだことについて自分の考えとその理由が書けている。数学の証明では、表現が十分でなく正答とならない割合は市や県の平均同等であった。教科を横断して読解力を高め、論理的に表現する指導を行いたい。
主体的に学習に取り組む態度	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は肯定的な回答が86.4%で、昨年度の64.3%を大きく上回り、他者との協働的な学びに意欲的に取り組めた。「学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」(86.4%)の向上を目指し、より主体的な学びとなる授業実践を行う。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査自校結果より理科+4.6pt、数学+2.2ptであった。社会と国語で2題程度、10%を超えているものもあったが、どの教科でも無解答率の割合が1%を切っていた。教科横断的に、複数の情報の中から得た情報をつなげて読んだり、比較して読んだりする読解力の向上に向けて取り組んできた成果と考えられる。
中2	R4年度さいたま市学習状況調査自校結果より、「知識・技能」「思考・判断・表現」とともに、国語は+0.9pt、数学は+0.7ptであったが、社会と理科においては、数値の低下がみられた。教科での学習を身近な出来事と関連させ、自分事として事象をとらえる力が弱いと考える。
中3	道徳教育に関する項目において、肯定的な回答が市平均よりも大幅に高い反面、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」「あなたの学校では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」の質問項目において、市の平均よりも自校の値が下回った。授業だけでなく学級活動等での主体的な活動に、組織的に取り組む必要がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	中間評価(9月) 目標・策の見直し 変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	R4市学習状況調査「学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」の肯定的回答割合は、全国学力・学習状況調査で1pt以上向上した。全学年87%以上を目指す。	⇒ パフォーマンステスト等でのフィードバックを実施し、自分の学習についての振り返りができる材料を増やす。